

和地ひとみレポート No.15

9月1日防災の日に改めて思う

被災地支援で知った『日常』の意味

■ 約4か月ぶりの陸前高田市

…8月28日、29日の2日間で実施された民主党東京都連合 男女共同参画委員企画のボランティアに和地ひとみは参加しました。6月より時間が許す限り被災地支援のボランティアに参加し、宮城県、福島県、岩手県と様々な場所でボランティア作業をさせて頂いていますが、陸前高田市を訪れるのは3回目です。

…陸前高田市は被災地の中でも瓦礫の撤去が進んでいる方とのことで、私自身6月に訪れたときより瓦礫が片付けられている状況は見て取れました。しかし、現状をそのまま表現するなら「撤去」というより「瓦礫を集めて大きな山にした」というのが正しい状況です。

…5月、6月には自衛隊の方々がここここで作業をし、他都道府県の警察の車も多く行きかかっていましたが、今回は神奈川県警のパトカーを1台見ただけでした。ボランティアセンターには多くのボランティアの方が訪れていましたが、津波の被害にあわれた地域はどこか以前よりひっそりしており、このまま忘れ去られてしまうのではないかという不安を誘いました。あれから半年といっても、現地の人から言うと「まだ半年」だとのこと。新しいニュースが日々流れる中でも、被災地のことを忘れず支援の気持ちを持ち続けたいと改めて思いました。

■ 「日常」とは個人のこだわりが戻ること…

…今回はボランティアとともに、盛岡の女性センター長など多くの方の話を伺う機会がありました。その中で印象的だったのは「日常」の意味についての話でした。避難所や仮設住宅での生活は「非日常」で、早く日常を

取戻したいと、多くの方が頑張っているのはご存知のとおりです。では「日常」というのはどのような状態なのか。それは、個人の小さなこだわりが実現することだそうです。例えば、歯ブラシや髭剃り。歯ブラシは「いつもは『硬め』の歯ブラシを使っていた」、髭剃りも「このメーカーの〇枚刃を使っていた」という個人のこだわりがありながら避難所で配布されたもので我慢をする。このような些細なこだわりが誰にでもあり、それが手元に戻ってきたとき、被災者の方は初めて「日常」を感じることができそうです。

…毎日「日常」の中で生活をしている私たちにとって、当たり前だと思える小さなことが叶わない。それがまさに「非日常」ということだと考えさせられました。

■ 4日に開催予定だった 東大和市の総合防災訓練は 台風のために中止

防災訓練



…9月1日の防災の日は各地で防災訓練が実施されました。

東大和市では5日に総合防災訓練を予定していましたが、台風のために中止。今年はいつもの年以上に防災の大切さを実感しながらの訓練になると思っていたのですが、天候のために延期ではなく、中止となってしまったのは残念です。私たちの大切な「日常」をできる限り保てるように、災害に備えた訓練は必要です。また、今回の震災を教訓にした市の防災計画、対応に見直すことも必要です。非常時にどんな問題が起こっているのか。生の情報を活かして市議会でも働きかけていきたいと思っています。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

【プロフィール】1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケット「つるかめランド」等を経営）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後もベンチャー企業を選び不動産投資会社に勤務。／同じビジネス界出身の加藤公一代議士との出会いに触発され、政治への道を志して2010年末に退社。現在、東大和市議会議員1年生として、日々、奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 【ホムペ ーシ】 <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0003 東大和市狭山2-864-3-202